



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-138

(2025. 1.31)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

関東営業第1部 高木 美奈

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

飯能信用金庫のハンズオンセミナーについて

ポイント

- 飯能信用金庫¹（以下「当金庫」という。）は、2022年11月、地域企業を主役、当金庫をハブとして、地域企業が他企業や支援機関等とつながる「伴走支援型地域プラットフォーム」を創設した。
- これを具現化した「ハンズオンセミナー²」は、これまでに11回、延べ1,630人が参加する規模で、地域企業の交流が生み出す価値創造や、その場で経営課題を支援機関へ相談できる交流会が好評を得ている。
- すでに一部の営業店では自発的に企画立案したセミナーや交流会が開催されている。今後は「地域のハブ」としての役割を果たすため、本部主導で同様の取り組みを継続的に実施しつつ、各営業店が主体的に取り組みを推進できる体制の構築を目指している。

1. 背景・経緯

当金庫は、自らが「地域のハブ」となり、多くの経営者が関心のあるテーマに応じて自由に交流し、参加者が相互に連携して情報交換できるオープン型プラットフォームを創ることを構想した。そして庫内での協議を経て、2022年11月、地域企業が他企業や支援機関等と交流できる「伴走支援型地域プラットフォーム」（以下「当PF」という。）を形成した（図表1）。

当PFは、当金庫と取引のある地域企業に加え、自治体や大学、外部連携先などが関わり、本中金も支援機関として参画している。

当PFを具現化した施策のひとつが「ハンズオンセミナー」（以下「当セミナー」という。）である。

(図表1) イメージ図



(出所：飯能信用金庫)

2. 概要・目的

当セミナーは、講演会と交流会の二部で構成される。2022年11月からほぼ隔月のペースでこれまでに11回開催され、延べ1,630人が参加した（図表2）。講演会は、多く

1 2024年3月末の当金庫の概要は以下のとおり。

本店所在地：埼玉県飯能市、預金量：1兆3,922億円、貸出金：6,520億円、店舗数：48店舗、常勤役員数：825名

2 当金庫は「ハンズオンセミナー」について、顧客向けチラシなどで「企業の皆様と職員が共にセミナーに参加し、皆様のニーズや課題に対話を通じて提案を行う一連の取り組みのこと」と解説している。

の経営者が関心のあるテーマに、当金庫パートナーシップ企業³や支援機関等が登壇し、先進的な事例等を紹介する。さらに、リアルとオンラインのハイブリッドで開催することで、気軽に参加できる工夫が施されている。

当セミナーの特徴は、営業担当による伴走型支援の徹底と、参加する支援機関等の幅広さである。営業担当は講演テーマに関心を示す地域企業を勧誘するだけでなく、セミナー当日の交流会にも同席する。これは、参加者同士の商談や支援機関等への相談を仲介する役割を担い、課題解決を後押しすることを狙いとしている。また、支援機関等の顔ぶれも多岐にわたり、毎回 10 機関程度が参加し、交流会の場で 1 機関あたり 5 社程度の地域企業からの相談に応じている。こうした取組みにより、地域企業が抱える課題に合わせたきめ細かな対応が可能となっている。

(図表 2) 開催実績

回次	開催日	テーマ	参加人数
1	2022. 11. 21	経営課題解決のための現場から始める DX	94
2	2023. 2. 24	身近な DX・中小企業が生産性を上げるためには	142
3	4. 21	社員をその気にさせる！イノベーションを起こせる人材マネジメント	128
4	7. 4	海外展開	123
5	9. 25	カーボンニュートラル	199
6	12. 8	地域活性 DX・循環経済なぜ取組むのか	157
7	2024. 2. 27	カーボンニュートラル、サーキュラエコノミー～先進的に取組む企業の過去・未来・現在～	142
8	4. 26	企業価値向上に向けた適正価格取引への取組み	180
9	7. 3	イノベーション・地域活性化を加速	139
10	9. 20	社会変化に対応する DX 経営	132
11	11. 29	アントレプレナーシップで切り拓く新規事業立ち上げの成功戦略	140

(出所：飯能信用金庫)

3. 反響

参加者からは、課題を把握する営業担当による的確なサポートにより、ニーズに合致した有意義な商談や支援機関等へその場で相談ができる点が高く評価されている。

³ 当金庫が推薦する先進的な取組みや地域貢献活動を行い、相互扶助の精神に賛同する企業と連携協定を締結し、地域の持続的発展のために相互協力するもの。2024 年 12 月現在、18 社と連携している。

また、事務局である当金庫地域支援部のネットワークを活用して継続的に支援機関を開拓している。2024年3月には新たに東京農工大学が加わったことで、高度な技術を用いた新規ビジネスの企画・検討が進むなど、製造業において特に大きな反響があった。

4. 今後の展望等

当金庫では、当セミナーの最終形として、同様のセミナーを営業店単位で企画・自走できる段階まで到達することを目指しており、すでに一部の営業ブロックや営業店では開催事例がある。当面は、本部主導で継続開催しながら、「地域のハブ」としての役割を当金庫内外に浸透させ、自発的な取組みが増えていくことを目指す。

また、当セミナーを契機とした商談等について、セミナー後の営業担当によるフォローアップをより強化し、当セミナーの開催効果をさらに高めていく方針である。

当金庫は、2023年にパーパス（企業の社会的存在意義）として、『つながり続ける、挑み続ける、未来を彩る笑顔のために。』を制定した。パーパスは、信用金庫の原点に立ち返って、地域社会の持続的発展のために当金庫がどのように活動するかを考え直したもので、共通価値である「未来を彩る笑顔」の創造に向け、地域とともに進むという意味が込められている。当セミナーは、当金庫のパーパスに即応した取組みといえ、今後の動向が注目される。

【参考】当セミナーの様子



（出所：飯能信用金庫）

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。